

# 12月「Weihnachtsmusik」 アントニア・シュルト

1. クリスマスの気分になるのに欠かせないのは、その時期しか食べない食べ物（クッキーなど）、寒さ、ろうソク、モミの木と音楽です。人によってきつと違いがあると思いますが、ドイツ人に聞いたら、多くの人は同じようなものをあげると思います。まだ11月ですから、クリスマス音楽を聴けるようになるまでもう少し我慢しないといけません、私にとって最高の楽しみです。クリスマス音楽と言っても、様々ありますので、国や時代やジャンルなどによってかなり異なると思います。英語圏の国では「Christmas Carol」（クリスマス・キャロル）と呼ばれ、クリスマス前の時に歌われている主としてイエス・キリストの誕生と関係した内容の歌を指します。

# 12月「Weihnachtsmusik」 アントニア・シュルト

2.ドイツの場合は「Weihnachtslied」(ウィナフツリート)という言葉がよく使われ、「クリスマスの歌」という意味です。お店やデパートなどに行ったら、流されている定番のクリスマス音楽は古くからある教会で歌われそうなものではなく、世俗音楽です。正直に言うと、私が好きなクリスマス音楽と大部離れています。もちろん、愉快的な歌だから良くないと言うつもりではありませんが、購買意欲を高めようとするものはやはり苦手です。個人的なスタンスですが、現在流行っている解釈に対して、クリスマスは本来二つの面があると思います。一つ目は、クリスマスに向かって、特に子供が感じている興奮や楽しみだと思えます。この気持ちを醸成するには愉快的なクリスマス・キャロルはぴったりです。二つ目は、自然光の少ない冬場の寂しさから生まれ、クリスマスの聖楽に表れてくる瞑想な気持ちです。

# 12月「Weihnachtsmusik」 アントニア・シュルト

3.この気持ちがよく伝わる好きなクリスマス音楽から引用します。

「エサイの根より」

1. エサイの根より 生いいでたる

くすしき花 さきそめけり

わが主イエスの

うまれたまいし このよきの日よ。

こういった音楽を聴くと、「今年は何をやってきたか」というような考えが浮かんできて、忙しい毎日から休め、一年間を振り返りながら、内省ができ、心が癒されます。